



飯地小学校 HP

夢をもち、懸命に生きる子 ～進んで学ぶ子・思いやりのある子・元気な子～

新年の初めに考える ～「地球は生きている」～

校長 下畑 茂

「『とにかく大きい夢をもとう』大きい夢があると、苦勞が苦にならなくなると、僕は思います」地球物理学者の竹内 均(たけうち ひとし)先生の言葉です。竹内先生は、私が高校生の時に恵那を訪れて講演をされました。

竹内先生は、科学雑誌「ニュートン」の初代編集長を務められました。その中で「地球は生きている」ということを書かれていました。地球に生命が誕生。長い年月をかけて進化を遂げてきた。そして人類が誕生し、文明をもつようになった。人類はやがて、ロケットを発明して地球を飛び立った。漆黒の宇宙空間に浮かぶ地球を眺めつづやいた。「なんて美しいのだ」と。母なる地球から生まれた生物が、40億年の時を経てやっと気付いてくれた。この言葉を聞いて地球はにっこりと微笑んだ。

3学期始業式では、3・4・5年生が理科の授業で学んできた月の話をしました。今から65年前、人類は初めての有人宇宙飛行に成功しました。そして2026年、「アルティミス計画2」が予定され、再び月面へ向かって行きます。そして近い将来、日本人の宇宙飛行士が月面に送られること。候補者は地質の専門家やお医者さん、女性であること。また、月面で作業する乗り物を開発している人もいます。「なりたい自分」で思い描く職業も地球から飛び立ってどんどん広がっていきます。

一方で、今の時代の人類を見て地球は何を思っていることでしょうか。地上400kmを飛行している国際宇宙

ステーション(ISS)では、世界15ヶ国の代表がお互いに助け合い、様々な科学実験や研究に取り組んでいます。先日、油井亀美也宇宙飛行士がISSから帰還しました。美しい地球の画像をたくさん送ってくれました。宇宙から眺めた地球に、国境などありません。宇宙で活動ができることは、国際平和と協力の象徴であるのです。

また今年、冬のオリンピックをはじめ、野球のWBC、サッカーのW杯等のスポーツの祭典が開催されます。各々の競技において、世界の国々の人が切磋琢磨し、そのひたむきに打ち込む姿は、観ている人達に感動を与えてくれます。私達が決して忘れてはいけないこと。その背景には、平和があることを。しかし、世界に目を向けると、今も戦争が行われていること。そこに同じ年の子ども達が、夢をもって生活していることを…。

私達は自然の一部であることも忘れてはなりません。12月に地球温暖化防止教室が行われました。講師の先生が話されました。「先祖から受け継いだ地球を次の世代に渡すのではない。私達の子どもから、今の地球を預かっているのです」この言葉を受け止め、飯地に生きる子ども達が、将来、視野を広げて、世界の国の人々と共に「地球人」として、自分で考え、行動できる人に育てほしいと、新しい年の初めに願いました。

「なんでも続けさえすれば、すごいことになるぞ」

(竹内 均先生からのメッセージ)

飯地小学校運営協議会コーナー

令和8年 太田神社歳旦祭

令和8年1月1日

～地域ぐるみで育てたい姿『豊かな体験を通して、ふるさと飯地への愛着と誇りをもつ』～

穏やかな元旦の朝、太田神社歳旦祭に参拝しました。春の地域探訪遠足の際に山口鉦一さんより、飯地町の神様が集められたことを伺いました。背景を知ること、これまで見てきた景色、場所が違って見えてきます。150余年の歴史を感じながら参道の階段を上って行きました。張り詰めた厳粛な空気の中、日頃より、お世話になっている方々が、正装で神事を行う所作を見て、この地で生きていく人は、文化継承、そして逞しさを身につけていることを改めて感じました。飯地小で学んだ子ども達が、将来、この日、この場に集い、この役を担っていくことを想像しました。直会の席で、柘植孝彦市議より「飯地小・こども園合同運動会での子ども達の姿を、多くの町民の方に見て欲しい。人数が少なくなる中で、子ども達の元気な姿は町の人達の活力、活性化につながっている」とのお話がありました。期待と同時に、双方において Win-Win の関係となるよう、学校の役割について再認識しました。飛躍の午年。本年も学校教育活動へのご理解・ご協力の程、宜しく願い致します。

